# 【概要版】次期「滋賀県農業・水産業基本計画」計画素案

# はじめに

**<策定の背景>**本県農業・水産業の中期的な施策の展開方向を示すため、近年の状況の変化等を踏まえ策定。

< 性 格 > 滋賀県基本構想を上位計画とし、本県農業・水産業の基本的な方向を示す指針となる。 生産者をはじめとする県民、市町・関係機関等と基本理念を共有する。 SDGs・MLGsの達成に貢献し、世界農業遺産に認定された「琵琶湖システム」を次世代に継承する。

< 計画期間 > 令和8年度(2026年度)から令和12年度(2030年度)までの5年間。



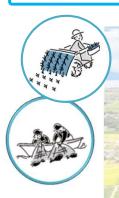




# 

# 第1章 基本理念

(仮) つながる、つづく、しがの農業・水産業 ~人と人が織りなす近江の食と広がる豊かさ~



「生産者」、「流通・小売事業者」、「消費者」の 立場や世代を超えて 心を通わせ、協力し、互いを尊びながら、 つながることが必要です。

このつながりが広がることで、 近江の食が未来へと続き、 人、経済、社会、環境の「豊かさ」が広がり 農業・水産業の営みがつづいていきます。

# 1. 基本理念の背景

これまで以上に立場の異なる人々が、心を通わせ、協力し、互いに尊びながら、つながり、広がることで、「近江の食」が未来へと続き、人々の豊かさを生み出せるよう、本計画では、『つながる、つづく、しがの農業・水産業~人と人が織りなす近江の食と広がる豊かさ~』を基本理念として定め、目指す姿の実現に向けた施策の展開方向を示します。

# 2.農業・水産業を取り巻く社会情勢の変化

- ・各産業分野での人材確保に向けた取組の進展
- ・ 生産資材・輸入食料の入手困難化
- ・オーガニック等環境に配慮した取組への関心の増加
- ・労働環境(テレワーク・移住)の変化
- ・スマート農業・水産業の普及
- ・国産農畜水産物輸出の進展

# 第2章 目指す2035年の姿

基本理念「つながる、つづく、しがの農業・水産業~人と人が織りなす近江の食と 広がる豊かさ~」を念頭に、滋賀県農業・水産業の目指す10年後(2035年)の姿 を、「人」・「経済」・「社会」・「環境」の4つ視点から描きます。



#### 担い手、支え手、ファンの拡大

農業・水産業の担い手が確保・育成されるとともに、生産者と消費者 のつながりが深まり、誰もが農業・水産業を身近に感じている。



# 食の礎を担う力強い農業・水産業

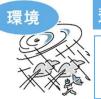
関わる誰もが「経済的な将来性」と「経済的な余裕」を獲得し、滋賀の強みを活かして、未来を切り拓くことができる、力強い農業・水産業が営まれている。



### 多様な人で賑わい、心やすらぐ農山漁村



多様な人が関わることで人と自然が共存する農山漁村が賑わうと 共に、その価値が高まり、誰もがその恩恵を実感している。



## 琵琶湖をはじめとした豊かな自然環境と調和した農業・水産業

気候変動や地球温暖化、自然災害等のリスクに対応するとともに、 環境と調和した「琵琶湖システム」が、次世代に引き継がれるための 取組として発展し、誰もがその取組を誇りに感じている。

# 第3章 政策の方向性

#### □ 新規テーマ

#### □ 琵琶湖システム関連

(2) 農業・農村・漁村を支える多様な

(3)農業・水産業の魅力発信による

(1) 担い手を確保・育成する

人材を確保・育成する

ファン拡大

①次世代の本県農業・水産業を担う新規就農者・ 漁業就業者の確保・育成

②未来の本県農業を担う中核的な農業者の育成

③子ども・若者など誰もが憧れる経営体の育成

施策

①地域農業や農村を支える多様な主体の確保・育成

②農業・水産業に関わる支え手の拡大

①食育によるファン拡大

②都市と農村の交流、農業・水産業体験等による ファン拡大

③本県農業・水産業の魅力発信

視点

環境

共通視点

政策

(1)琵琶湖を中心とする自然環境と 調和のとれた農業・水産業を展開 する

①生産性と持続性を両立した環境こだわり農業等 の展開

|②環境と調和した全国のトップランナーとしての

オーガニック産地の拡大

③環境と調和の取れた付加価値が伝わる生産・流 通・消費の好循環の実現

④漁場環境の保全再生と栄養塩等の健全な循環に よる水産資源の回復

⑤家畜ふん堆肥の有機資源としての有効活用と耕 畜連携による飼料づくり

(2)地球温暖化対応策のさらなる 推進に取り組む

①温暖化の進行を緩和する対策の展開

②温暖化による影響への適応策の展開

③2050年CO2ネットゼロに向けた中長期的な対応 策の検討・実施

(3)自然災害などのリスクに対応する。①農業用ダム・ため池等の防災減災対策

②家畜伝染病等の発生に備えた体制整備や養殖業 における魚病対策の推進

③自然災害等に対するリスクマネジメントの推進

第4章 政策の推進方法

県民に対する情報提供

・分野別(農・畜・水産業、流通・販売等)の政策推進

試験研究と普及活動による施策の推進 他

参考資料

・2035年における滋賀県農業・水産業に影響を及ぼす社会情勢の変化

・SDGsのゴール、ターゲットと関連する施策との関連性 他

政策

施策

!(1)需要の変化に対応できる生産力を 確保する

①日本有数の米どころとしてのさらなる躍進

②麦大豆の安定供給を目指した取組の推進

③汎用性が高くスマート農業の導入にも対応する 基盤整備の推進

④選ばれる近江牛づくりの推進および持続可能な 県産畜産物の生産

⑤水産資源の管理と持続的利用の推進

⑥地域の漁場の利用適正化

(2)地域の魅力や強みを生かした生産 を進める

①都市近郊の強みを生かす野菜、花き、果樹の億円 産地づくり

②茶などの輸出に対応した産地づくり

③地域を元気にする特産づくり

| ④琵琶湖ならではの自然資源を利用した漁業生産の

推進

|(3)経営体質の強化を進める

および販路拡大

①農業・水産業の担い手の経営体質強化

②省力・効率化につながる農業生産基盤の整備

【(4)消費喚起によるブランドカの向上

①滋賀ブランドとして消費者が選ぶ近江米

②近江牛をはじめとした県産畜産物の魅力発信

③都市近郊の強みを生かした野菜、果物、花き等の 販売力の強化

4 県産農畜水産物を世界へ

⑤琵琶湖八珍のブランド力強化および湖魚が届く流 通の効率化促進

⑥「食」を通じた県産農畜水産物の魅力発信や消費

拡大

政策

(1)農山漁村に関わる人を増やす

①地域の魅力強化に向けた関係人口の創出

②漁と魚と料理を堪能できる漁村の創造

社会

視点

視点

経済

(2)多様な主体との連携強化で農山漁 村の暮らしの維持・活性化を図る

①農作物の鳥獣被害を少なくする取組の推進 ②農村コミュニティを維持・活性化する取組の推進

③異業種との連携による地域の活性化

(3)地域全体で生産基盤を守る

!①農業・水産業生産基盤の整備

②多様な主体の連携・協働による地域資源の保全・ 活用